

第402 昭和の森自然観察会

昭和の森の巨樹を探そう

梅宮玲子(市原市)

日 時：2026年2月8日(日) 10時から12時 天気：雪

参加者：4名(大人4名、子ども0) 指導員3名他1名

担当指導員：佐野由輝・梅宮玲子

大雪の昭和の森で「昭和の森の巨樹を探そう」の観察会が実施されました。雪のせいで電車が遅れ、道路もスノータイヤでないといけない感じではありましたが、参加者の強い熱意から中止せずに実施することになりました。(管理事務所の人が前日に雪でも参加できるかどうか確認した。)最初は暖房のきいた室内で、樹木と草の違い、巨樹の面積や高さのクイズなど。幹回り300cm以上、地面から120cm 樹の周りを測る。巨樹の概念の講義をうけました。

そのあと、やや雪がこやみになり、明るくなってきたので、外で、実際に参加者の皆さん達と管理事務所の近くから、巨樹らしい樹木の幹回りを樹木メジャーで測定開始。

シラカシ、モミノキ、クスノキ、みんなで協力して、測って行きました。クスノキの周りでは白いテープで輪っかをつくり、みんなで両手にもち、日本で一番大きい蒲生のクスノキを実感。またこのモミノキをクリスマスツリーにみたくて、電飾したら、いくらかかるでしょう？クイズなど。

ここからは、10分近く歩くのですが、昭和の森で一番大きい樹をみたいかどうか参加者に聞くと、全員見たいとのこと。梅林の近くの巨樹までまっすぐ歩いていきました。途中、沢山の雪だるまや、雪で遊んでいる子供たちをみながら、20cm以上積もった雪をものともせず歩くという健脚ぞろいの元気なシニアの皆さん達(参加者は60代から70代)。

昭和の森一番の巨樹ユリノキの幹回りを測り(約3m80cm)、改めて大きさに感動。いつからこの木はここにあるのだろう。とか、誰が植えたのかなど質問が飛び交いました。そのあと隣の梅林をみてから、管理事務所の隣の建物に戻り、感想を聞くと、大変良かった。散歩でよく来るけど、こんなに、巨樹があるとは気が付かなかった。とても勉強になった、などなど。少人数ながら、楽しく来たかいいがあったとのことでした。大雪の中の観察会はここまで来るのはアクセスが大変でしたが、真っ白で幻想的なたたずまい。大変貴重な体験となりました。



巨樹クイズ 一番大きな木の面積は？



巨樹の幹回りをみんなで測る